

平成26年

季刊

夏季号

Vol.49

亞東



一般社団法人亞東親善協会・平成二十六年新春互礼会



一般社団法人亞東親善協会

The East Asian Friendship Association

一般社団法人亜東親善協会の概要

名称 一般社団法人亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

事業

- ① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版
- ② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介
- ③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋
- ④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談
- ⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の斡旋
- ⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年 東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長 の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二十一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇二二年、会長にお迎えしていた自由民主党総裁安倍晋二衆議院議員が内閣総理大臣に就任され、代表理事及び会長の職務を辞されました。

後任に会長代行・大江康弘参議院議員の代表理事が承認され、一般社団法人移行に伴い、二〇一三年 第一回通常総会に於いて代表理事・会長に就任されました。現在、領土問題等の紛争、北朝鮮の核問題、発展に伴う水・エネルギー環境問題なども山積しております。

アジアの繁栄と平和に貢献するために、本協会会員一同、役員陣容を強化し、新会長のもと、叡智を結集し努力を続けております。

季刊「亜東」平成二十六年 春季号・目次

一般社団法人亜東親善協会・概要・変遷 二頁

目次・一般社団法人亜東親善協会役員名簿 三頁

平成二十六年新春五礼会 四頁

平成二十六年新春講演会 八頁

玉澤徳一郎名誉会長・叙勲 十二頁

台日同名三三三駅名観光プロモーション 十七頁

日台キッズラグビー交流 十八頁

お知らせ 編集後記 二十三頁

一般社団法人亜東親善協会顧問 (順不同・敬称略)

沈 斯 淳	今井 正	根井 洌	毛 友 次	林 錦 清
小田村四郎	黄 清 林	林 瑞 祥	長尾 孝則	施 梨 鵬
鄭 尊 仁	李 純 京	羅王 明珠	謝 文 政	

社団法人亜東親善協会役員

名 誉 会 長	玉澤徳一郎			
会 長 ・ 代 表 理 事	大江 康弘			
副 会 長 ・ 理 事	山本 順三	張 建 國	張 碧 華	千葉 健司
専 務 理 事	崎谷 秀彦			
業 務 執 行 理 事	赤松 則宏	南部 晴彦	益山 茂	並木 正芳
理 事	小松 省二	橋本 靖男	仲谷 俊郎	新井 秀子
	李ハロルド	松永理恵子	多 忠和	三浦 信行
	伊野 雅晴	柴田 徳文		
監 事	莊司 隆一	藤山 雅康		
支 部 長	青森県・大見光男	岩手県・高橋義麿		
	茨城県・石川多聞	広島県・月村俊雄		

一般社団法人亜東親善協会

平成二十六年新春互礼会

日時：平成二十六年二月十二日

十八時より

於：ザ・キャピタルホテル東急

「鳳凰東の間」

赤松則宏協会業務執行理事による司会で開会。

冒頭、玉澤徳一郎協会名誉会長が昨年の叙勲で旭日大綬章を受章されたと紹介されました。



参議院議員・山本順三協会副

会長は、「元衆議院議員・玉澤徳

一郎名誉会長は大学のゼミの先輩でもあり、部下として活動をしてきた」と関係を紹介。

「安倍政権の行く末に若干の不安全感を感じている人がいるとすれば、政権が間違った方向に行きかけた時、それを違うと言えぬ仲間の存在が大事。」

その点、玉澤先生は正しいこととは正しい、間違っていることは違つたと明快に語れる政治家のひとり。そして語つた論拠が必ずある大先生です。

是非今後も安倍政権を支えて言つて戴きたい」と述べられた。

受章したことを祝して、玉澤徳一郎協会名誉会長に、大江康弘会長夫人より花束が贈呈されました。



玉澤名誉会長は、「一九六〇年

の安保、七〇年安保、あの時に

闘つてきた精神、共産主義との

闘い、右翼の独裁とも闘い、自

由・民主主義を中心として常に

やってきました。

これを評価していただいたものと考えています」力強く、感謝の意を表されました。

玉澤名誉会長に大江康弘会長夫人より花束贈呈

大江会長は、挨拶のなかで、「今日あるのは、玉澤名誉会長のお蔭。会長に御指導を仰ぎ、台湾に行く回数が一番多かった私に、お前やれ、と言っていたから」「議員失職した現在、理事や会員の皆さまに心配をお掛けしたが、この歴史と伝統ある、民間の中で最も大きな交流会である亜東親善協会の存在は、私自身より相応しい方がおられたら、という思いです。何時までも会長職に恋々とするものではない、という考えです」と話された。

「日本と台湾の関係は、いま最高の関係が続いていると言われている。皆さんそれぞれの台湾と日本にかける信頼や想いが、人間関係構築の中で積み上げられて、揺るぎない関係が築かれる」述べた。「昨年、来日旅行者が一〇〇〇万人の目標が達成で

きたのは、来日外国人旅行者の二割・二〇〇万人強の台湾人旅行者のお蔭との認識を示した。「政治は時には対立することもあるが、その溝を埋め、壁を崩

していくのは民間交流による日々の人間関係の構築である」と述べ、日台間の民間交流の重要性を強調し、台湾関係者にエールを送った。



台北駐日經濟文化代表處・余吉政副大使

台北駐日經濟文化代表處・沈斯淳大使の代理として余吉政副大使は、「昨年四月に調印された『台日漁業協議』によって、東シナ海は協力と平和の海となった。また、昨年一月にも電子商取引、薬品、鉄道などの覚書や取決めが調印された。特に台日間の經濟貿易関係がスムーズに進展している」と述べられた。

今年はアジアで初めてとなる東京と福岡で國立故宮博物院展が開催されることを紹介され、今後については、防災、原子力安全、気候変動、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）やRCEP（東アジア地域包括的經濟連携）等の經濟連携などの分野でも日本との協力が進むことに期待を示された。

公益財団法人交流協会の小松道彦・総務部長は、日本富士山協会と中華民国山岳協会による台日最高峰の玉山・富士山友好山提携の調印、台湾の形をした「ゆるキャラ」で日本人に向けて台湾をPRする「 Тайワンダー☆」の登場、台湾と日本の同じ駅名どうしの交流など、幅広い交流が進められていることを紹介し、



橋本靖男・日華議員懇談会事務局長

「日台間の良好な関係に安心するのではなく、もっともっと関係を強化し、交流を進展させていかなければならない」と述べられた。



乾杯のご発声は、北海道選出の協会顧問・伊東良孝衆議院議員協会顧問他がご登壇された。右より
小松道彦・交流協会総務部長

- 余 吉政・代表處副大使
- 山本順三・協会副会長
- 林 錦漫・華商總會理事長
- 岡田 広・参議院議員
- 佐々木さやか・参議院議員
- 玉澤徳一郎・協会名誉会長
- 大野松茂・元衆議院議員
- 伊東良孝・衆議院議員
- 篠原文也・政治解説者
- 橋本英教・衆議院議員
- 根井 洵・台湾協会理事長
- 大江康弘・協会会長



乾杯後、祝宴が開始される中、



台北駐日経済文化代表處・副代表・政務部・證照部・科技部・僑務部・行政部・協調部・新聞

部・業務部・經濟部・文化部等の皆さんが登壇し、紹介された。



中締めは、協会・張碧華副会長の恒例の三本締め。



一般社団法人亜東親善協会

平成二十六年新春・講演会

日時：平成二十六年二月十二日

場所：ザ・キャピタルホテル東急

講師：篠原文也氏(政治解説者)

演題：「どうなる!?」

二〇一四年日本の政治

司会：大江康弘会長

今日はみなさん、大変お忙しい中、ありがとうございます。
二〇一四年亜東親善協会新春互礼会。互礼会に先立ちまして、篠原文也先生に講演を戴くことになります。

二部の互礼会の方でも、皆さん親交を深めて頂きたいと思えますけれども、特に今日は今回忙しい中、衆議院の武部新先生もそして参議院の二之湯智先生もお越しを頂いておりますし、大先輩であります大野松茂先生も

今日は駆けつけて戴きまして、本当に感謝を申し上げますと思います。早速篠原先生にご講演を戴きたいと思えます。演題は「どうなる!?」二〇一四年日本の政治、有意義な時間を過ごして戴ければと思います。



講師：篠原文也氏

大江さんからお話がありましたけど、僕もどういふ会かよく

判らなくてですね、何れにせよ一寸時間を空けてなんとか来てくれということ、駆けつけて参りました。私は大江さんとは長い付き合いなのです。ここにも武部さんや二之湯先生や元官房副長官の大野さんも皆さんいらつしやるので、あんまり露骨なこと言えないのです。

若い人の投票率がすごく落ちてますので、これはもう子供の頃からもつと社会や政治や色んなものへの関わりの意識をですね、もつと教育の中で植えつけていく必要があるのじゃないかと、僕は前からこれ、大野先生

が官房副長官の時に僕は偶々福田内閣で教育再生懇談会という総理直属の提言機関がございまして、そこで委員をやらせて戴いた時に、この問題を提起してですね、ワーキンググループの責任者を務めさせて戴いたことが

ある。

本題の二〇一四年。安倍政権の最大の課題はアベノミクスがどこまで浸透するかと。安倍さんの言葉を借りれば、全国津々浦々に、こういうことですね。つまりこれは一部の大企業だけじゃなくて、中小、小規模企業、そして何よりも家庭に浸透していくかどうかと。こういうことに、安倍政権の命運というのは全てそれに懸っている。

四月の消費税の増税がございまずから、そこを上手く乗り越え安定軌道に経済を持ってきて初めて集団的自衛権の問題とか憲法改正の問題の本腰を入れて取り組む体制が、状況が生まれるのではないかと。そこが上手くいかない、或いはそこが非常に中途半端な状況の中でそういうものを手掛けていくとですね、

この政権、今大変支持率高いです。すまた、五〇〜六〇%の支持率を取っていますから、今年前半はあんまり他のことにはもう踏み込まずに、経済、経済、経済と、これ一本で行ったほうが良いんじゃないですか、と申し上げているわけでございます。

各企業この新年会色々ありました。色んな企業の方々に今年もお会いする機会がございました。ベースアップということになりますと、二の足を踏む方が多いですね。やっぱり七〇〜八〇%の企業はベースアップには慎重および消極的でございます。でも、賃上げっていうのは一時金もありますし、手当の増額もあるし、定期昇給もありますから、そういう形で報いようという企業は大半だと思います。

だけど、月例賃金を上げると

いうところではなかなか多くの企業が踏み切れない、という状況。その中で円安による物価高、それから色んな、僕に言わせれば、実需を伴わないですね物価高が色んな形で出ていると。そしてそういう家庭の負担は非常に重くなっているという状況でございますから、それに賃金が思うように上がらないということになりますとね、これはかなり厳しいと思います。

もう一つ原発の再稼働という問題がある。これも結構政権を揺るがすと思っております。私揺るがすというか世論の動きがダーと覚醒してくると思います。

東京都知事選挙、四六%台の投票率・結果をどうお受け止めになりましたか。原発という 이슈ーが本当に都民の選択肢から全て外されていたのか、私は

そうじゃないと思う。単に、やっぱり優先順位があると、景気回復だ、福祉だ、ということでも優先されて厚労大臣を長くやつた舛添さんの方がまだ良いじゃないかと、こういう判断だと思います。

原発再稼働に賛成ですか反対ですかという二日前のNHKの世論調査もそうだったけど、やっぱり反対の方が多いですよ。国民全体の捉え方になるとやっぱり反対の方が多いですよ、或いは慎重な人も多いです。だけど、今の流れから言えば、関電の大飯原発の活断層はないという方向ですから、これから再稼働が始まっていきますよ。

そうなったときに、世論はどういうふうなあれに出てくるかと。これは安倍政権の支持率に間違いなく、どこまで落とすか

判ら無いですけど落とすと思います。

教育委員会制度の問題です。

この問題はですね、官邸と自民党の間に落差がございます。

もつと言えば、官邸と文科省と自民党、公明党の間に相当落差がございます

安倍さんにとって今非常にうまい人事をやっているんですね。つまりポスト安倍を狙いそうな人たちを殆ど閣内や党の方に閉じ込めている。これも非常に安倍さんにとっては自分の思うように政権を出来るという状況につながるわけですね。

次の狙っている人が何人かいると思います。まあ麻生さんという説もある。それから幹事長の石破さんという話もある。まあ石破さんは恐らく間違いなく

次はじゃあもう一遍やってくるんですよ。

あと、甘利さんという。まあ甘利さんも舌癌でやられたから、身体が持てばの話ですけどね。これ舌切られたからっていつてこの間言っていましたけども

まああと林芳正さんを担ぐという動きもあるし。まあ色々あるんですが、みんなそれぞれ身動きが出来ない状況に今はなっていますから、これ安倍さんにとってそういう動きを封じ込められるということだと思いません。

ここに玉澤さんもいらつしやいますけども、私よりも本当によく「存じ」のところが随分あると思いますけれども、安倍さんと石破さんというのは本質的に合わないんです、これは。お互

いに大人の付き合いを今してるという感じではないでしょうか。

安倍さんが総裁に就任して総理経験者をずっと回りました。その時にある総理経験者から聞いたんですけども、その総理経験者は、「公明党との関係をしっかりやってくれ」と、「自公が大事だ」と、こういうことを言うたら「はい」って。

「まああなたが直接やるのはあれだろうから、幹事長、石破君をもっと動かしてやったらどうだ」とこういったら、「いや彼はそんなことを出来る男じゃないんですよ」と、そういうったさうですね。

だからあんまり信用してない、評価してないということかも知れない。でも、あれだけの表を総裁選挙で取り、国民的人気

がございませうから、使わざるをえない。止む無く使っている、まあこういう状況でしょう。

菅さんと安倍さんの関係というのは、今のところ崩れはないですね。まあ靖国の問題を巡って多少ありましたけれども、まあ菅さんというのは靖国参拝慎重論でございませう。

一九年一〇月は阻止できなかったけど、一二月は阻止できなかったということでございます。

教育委員会制度について（略）。

一番大きいのは集団的自衛権の問題ですね。周辺事態法、自公の間に、隙間風と言ってますけど、まあ隙間風ぐらいならどうってことないと思えますけども、暴風雨が吹き荒れることも無くはない昨日の予算委員会、

昨日じゃない一昨日か、海江田さんの質問に対して、どうだこうだ、弱いと新聞にはでていますけれども、その党大会の雰囲気を見る限りですね、私はこの夏に海江田下ろしをやるうとしてる人たちがもしいるとすれば、これはなかなか難しい、不発に終わるんじゃないかなという感じを実は持ちました。海江田さんは、来年の統一地方選挙に向けて頑張るんだということをしきりに繰り返しました。

今の政治の状況は、「一強他弱」だということがよく言われますけれども、まあ確かにそうです。

一人忘れてる政治家。小沢一郎という政治家はもう一緒に組む気ないのかといって言ったら、みんなやつぱり首傾げますね。考え方がちよつともう違い過ぎた、開きが出過ぎたということ

で。昨日、今日の新聞出てましたね、

維新のスピーチかなんか、維新じゃないや小沢塾のスピーチかなんかで、だいぶなんか消費税に理解のあるような発言に変わったり、少しずつまたシフトしてきているなあと。小沢さんというのもある結構ね、よく言えば柔軟、悪く言えばもう本当にいい加減というか、もう政策じゃないんですよあの人は。常に政局の人だから。それは大江さんが一番ご存じじゃないかと思えます。

どうも有難う御座いました。質問を。

「今年はですね、先進各国もあまり成長期待できない年かなと。日本としては、安倍政権としては、ロシア、インドの関係を更に深めまして、ASEAN、東

アジア、所謂中国の派遣主義に日米同盟を主体に、ロシア、インドの関係を深めながらやっていくのが一番得策かなと。日中関係、非常に悪いんですけれども、あまりいじらないで時間を待つと。韓国も、あまりとやかく言わないで待った方が良く、というのが私の判断なんですけれども、先生はその点は如何でしょうか？」



日本の外交当局も中国側から「なんだあそこまで我々も妥協して色々やってきているのに」と言っただけでかなり不信感を持たれているという話も聞きますけれども。まあこれは日本の場合、安倍さんがみんな決めていた状況ですからしょうがないと思えますけれども。日中というのは逆に言えばあんまり心配してはいないですよ。

日韓の方がキツイなと思ってる、朴さんが弱腰で、見せたら韓国の中のメディア、世論に袋叩きに遭いますよ、今ね。慰安婦の碑まで作ろうというような動きが出て、だから言い出せない。それで下手にやったらもうこれ政権自体がおかしくなっちゃうという。

日本もそうですし、中国もそうですけど、韓国もそうだけど、外交問題、全部内政問題と全部

一体化してますから。で、みんな朴さんにしても支持率、強硬路線を取ることで何となく支持率を保っているんです

ナシヨナリズムというのは、日本もそうですし、中国も韓国も、やっぱり最近ちよつと強まりますよね。

そういうものの自制が、日本だけじゃないですよ、韓国も中国も足りないなど。全体的に悪いナシヨナリズムがあまりに全面に出過ぎていっているという感じが私は致しております。

有難う御座いました。

大江会長..

「先生、有難う御座いました。」

平成二六年二月十二日五時
ザ・キャピタルホテル東急

【講演会記録より抜粋】

玉澤徳一郎先生【一般社団法人亜東親善協会・名誉会長】

旭日大綬章叙勲祝賀会発起人ごあいさつ

皆様には益々ご清栄、ご健勝の段お慶び申し上げます。

本日は寒風の中、玉澤徳一郎先生の叙勲祝賀の宴におはこび下さり、衷心より御礼を申し上げる次第であります。

皆様ご高承の通り、玉澤先生は一介の青年であり、昭和四年の選挙で初立候補をし、広い岩手県第一区内を縦横無尽に走り回り、一八〇七九票余りを得票されました。選挙後上京された際「結果として岩手泣く」だったと言っておられました。

そして奮起して昭和五年の三回目の選挙で初当選されました。またその後当選六回目を期して、農林水産大臣の指名を予期しての選挙で、思いがけなく落選の憂き目に合っつてしまい皆で落胆した事を覚えております。

所謂「塞翁が馬」という格言がありますが、玉澤先生は、その貴重な経験を心に秘め、その後選挙区内のあらゆるところを訪ね、村の奥地まで一軒一軒お願いの活動をし、次の選挙では最高点で見事復帰され、国政現場で仲間の方々と共に初心を忘れず、自己の信念を貫かれたのであります。

議事進行係をしていた際、四〇度の高熱に苦しみながらも本会議場に入つて自分の責務を果たされたお姿は、多くの議員達に国民より「信託を受けている身」がいかに大切な事かを如実にみせたものと敬意を表する次第であります。

「天網恢恢疎にして漏らさず」を肝に銘じ、大震災の被災地の復興、景気の向上、国家財政の健全化、社会保障政策の充実、そして二〇年の東京オリンピックの成功の為、玉澤徳一郎先生には、御自愛のうえ益々活躍されますことをご祈念申し上げます。

本日は誠に有難うございました。

旭日大綬章叙勲記念祝賀会 平成二六年二月一七日

於ホテルグランドヒル市ヶ谷にて

発起人代表 森 喜朗
発起人 伊藤 明
発起人 町村 信孝

.....

玉澤徳一郎の志

玉澤徳一郎事務所

新しい歴史を拓く勇氣を持たない政治家は何と悲しい者なのだろうか。わが日本は今、正にこの点が世界から注目されていると思われます。東日本大震災の発生から三年、未だ数十万人の被災者が郷里を離れられており、また家族を喪い生家失い途方に暮れて過ごされている被災者の方も多く、それでも日本全国そして全世界から「ガンバレ日本」の声に支えられ、今日皆が助け合い、声をかけ合いながら「今日よりは明日」の気持ちを持ち、日々の生活を送られております。

日本国はウランエネルギー、所謂原子力エネルギーの爆発で世界で公式に二度被害にあつております。一つは広島・長崎の原爆であり、二度目はこの千年に一度と言われた大震災による福島原子力発電所の被災であります。そして今日本の科学者のみならず全世界の最高の科学者全てが一丸となり、この被害を終息させるべく、核爆発によつて発生するエネルギーを完璧にコントロール出来る方法の発見のため全力を尽くしておる最中でありませぬ。

玉澤徳一郎先生もまた、東日本大震災事件の被災者の一人であります。生家を失い、妹、ご夫妻を亡くしておられます。最初に被災地を訪れるの光景を眼にした時、万斛の涙を流すとともに政治家の一人として約四〇有余年、防災の為の努力してきた事が無に帰したのは残念の極みと痛感したに違いありません。

玉澤先生が政治家を志したのは中学三年の時と聞いております。寒村の田老町に生を受け、太平洋を眼前に小さい街並みの中で少年時代を送りました。盛岡第一高校から早稲田大学へと進み、大学在学中約二年間「世界道徳再武装ⅡMRA」の日本組織の青年隊の一員として世界一周の旅を経験しております。その際、米国アイゼンハワー大統領をはじめフランスのシューマン首相、インドのパール博士、ボリビアの將軍等、各国の指導者の方々と面談が先生の政治家志望を一層強くしたものと思われませぬ。

昭和四三年五月の某日、その身は上野駅の地下ラーメン屋に後輩の一人とありました。その際、先生の言葉は「俺は選挙に立つため、これから岩手にもどる。東京での支援を頼む。」の一言でありました。お金が無く、一杯のラーメンを二人で分け食事し、水盃で「先輩頑張ってください。」と激励し、先生は夜行列車で盛岡へと立ったのであります。

その後輩は秋田、十和田湖を有する小さい鉾山町で生を受け、敗戦で食糧難の折、親が着物を持ち農家を訪ね米を分けてもらうために歩いた経験から、おそらく玉澤先生と思う気持ちは一緒だったのではないのでしょうか。また早大での左翼勢力との闘争の中で玉澤先生の生弟子として色々教えを受けた同志の一員であり、先生と相通するものがあった一人だったのであります。実家が盛岡へ移った関係から、多くの同志の中から指名され爾来今日まで玉澤先生と清濁あせて持つ関係と聞いております。

そうした中、玉澤先生は、艱難辛苦の約八年を経て、昭和五一年二月、初当選を果たしました。

総決起大会には三陸各地から大漁旗が、また、盛岡からは「さんさ踊り」が選挙区各地から二〇〇〇人も集まり会場は熱気でむんむんしておったとの事でありませぬ。

無所属で初当選したので、当時福田赳夫先生から「常任委員会」「特別委員会」は「玉澤君の希望通りやるから何でも言いなさい。」と言われておりました。そして当時、岩手県知事をしておられました千田正先輩に挨拶に参上したところ「玉澤君、私は今日のチベットと卑下される岩手を変えるため、北上山系開発の大事業に着手しており、是非国政の場から応援してほしい旨」願言があったと聞いております。

また同じく盛岡一高柔道部の大先輩であります瀬川様より呼ばれ「自分は、日本の原子力産業の開発を進めており、国会議員で応援する方が少ない事から日本の新エネルギー開発の為行動してほしい」との要請があり、玉澤先生は、農林水産常任委員会、科学技術特別委員会の一員となった次第であります。

岩手県は日本の食料供給基地の建設のため四〇数年、総事業費九〇〇億円以上の投資をなし、今日では「日本チベツト」という汚名の返上を見事果たしております。それはまさに玉澤先生の政治家としての歩みであり、努力の賜物ではなかったかと思われます。

岩手県には盛岡以南の「母なる川、北上川」の恵みを受けた豊潤な大地があり、良質の米の産地であり、果樹・畜産の産地であります。しかし玉澤先生の選挙区は盛岡より北の地そして三陸の海岸であり、盛岡以外は人口も少なく、山岳地帯がほとんどであり、少ない高地を利した効率のある農林水産業を定着させるのが課題でありました。

種々考え、多くの国民の声を背にしなから、県北には「葉たばこ」を主体に「養鶏IIプロイラー」そして野菜団地の造成に励んだと聞いております。盛岡以南の平野部では大土地改良区をつくり、三陸海岸は漁港整備、道路、釜石湾口防波堤の建設、養魚施設、あわび、うに、わかめの養殖事業の推進に尽力されました。

胆力のある政治家は国家経綸のため炯眼隆鼻を忘れず、温故知新し、堅忍不拔の精神と為公の活動を第一としなければなりません。俊敏にして順理則裕を信じ、罵言雑言に惑わされることなく自分の信ずる道を真正面から歩むことこそ肝要と信ずるのであります。そこを堅忍不拔の努力によって敢然と立ち向かい、自分の主義、主張、信念のため邁進することこそ諦観なことと必要条件と確信し、玉澤徳一郎先生は一切の活動の原点はそこにあったものと思えます。選挙は常に凄愴奇烈なものであり、五度の落選を経験され、九度の当選を実現いたしております。

朝令暮改とは縁が無く一般の皆様と同様、信賞必罰を信じ、奸智に長けた政治家には決して理解されない人物と映ったと思えます。「政界貧

民」を自負するところはいかにも先生らしくただ国の為、国民並びに県民の為、そして世界平和の為、ご活躍されて来られたことに衷心より敬意を表する次第であります。

玉澤先生には、このような哲学からライフワークとして安全保障政策、外交活動の探求活動にあったと拝察いたします。四回に及ぶ世界一周旅行で得た経験は玉澤先生の活動に全て生かされております。先生は防衛庁長官の時、治安の維持の為、PKOとして先遣部隊と共に率先してアフリカ・ルワンダへ行かれました。当時、防衛庁幹部は「現地調査のうえ、安全が確認されてから長官は行くべき」と進言したようですが、「責任者たる自分が行かなくてはならない」と一言で、その任にあたったと伺いました。また、日米交渉においてもSACO協議で那覇の米軍港の返還を得るなど、日米安全保障関係の充実に多大なご尽力をなされております。

農林水産大臣のときには、海洋二〇〇海里体制になってから三年間引きのばされた日中、日韓の漁業条約を北京、京城にのりこんでいって新条約の締結をされました。

WTOのドーハラウンドの最初の閣僚宣言を行う会議においては関税を下げ、国内農業補助金を一括して下げるべきだと主張する米国とケアンズグループと真つ向から対立し一步もひかず食糧の安全保障を主張してこの会議を分裂せしめた。今日のTPP交渉にも大きな影響を与えているといわれていると受け留められます。

近代日本は明治維新の大事業、第二次世界大戦の敗戦による荒廃した国土の再建という大事業を経て今日に至っております。当時の主役は、いずれも三〇代四〇代の若者であり、四、五年で外国語を修得し、世界でも類の無い発展を実現しました。戦争を始めるのはたやすいが、

終結させる事がいかに困難な事か、世界の歴史を多少なりとも紐とけば解かります。

日本の終戦記念日は八月一五日ですが、米国は九月一四日です。即ち、戦艦ミズーリー号での重光外務大臣の「降服文書」のサインの日であります。その間横暴にもソ連が参戦し、千島列島北方四島を占領いたしました。帝国主義、植民地政策が横行していた時代、当時の吉田茂総理を主とする為政者達の「国家護持」「天皇制の存続」にかけた熱情は計り知れなかつたと想像いたします。

安倍総理の祖父の岸信介総理は「日米安保条約」締結のため、即ち、わが日本国が自由民主主義国家として歩む決断をし「辞表」を背広に入れ、あらゆる重圧を超え、怒号の中で成立させ、その後の日本の礎を築いたものと考えます。

我々は六〇年安保、七〇年安保で左翼に対して戦いぬいて、今日の本の独立と平和にいささかでも寄与したことを誇りに思っています。そして今、安倍総理は祖父、父の教えを一身に受け、わが国のリーダーとして大活躍しているのであります。

昨年は伊勢神宮の式年遷宮祭、出雲大社の六〇式年祭がありました。わが日本国民は、このような儀式を大事にし、礼を持って礼を失することなかれとの思考を重視して来た民族であります。安倍内閣が放った「三本の矢」が実るか枯れるかは、今年のそれぞれ国民の精励の日々にかかっております。今年は丑の年、千里を真すぐ走り貫く勇気が持てるか否かにあります。

最後に玉澤徳一郎先生の長きご奮闘を高く評価するとともに、防衛庁長官時、阪神淡路の災害、オウム真理教によるサリンテロ、自民党災

害対策本部長の時には、新潟を主とする北陸の災害、その他地元若手山麗の大地すべり災害等、幾多の経験を経て今日に至っております事を皆が知っており、かつ「予算を持って来るのは玉澤徳一郎、それを使うのは別の方」との雑言には眼もくれずご活躍されてこられました事に衷心より敬意を表し、この度の旭日大綬章の受章を、本日ご参集下さいました方々、並びに今日まで支持して下さいました皆様とともに祝意を申し上げる次第であります。

そして、昨年参議院選挙の投開票で自由民主党の勝利が確定した翌日、天皇陛下にあらせられましては御身ご不安の中、岩手県大船渡市をはじめ被災者の激励のため、御身おはこびくださいました御姿を県民の皆様とともに生涯忘れず、超克の念を持って被災地の一日も早い復興のため懸命に努力して参りたいと決意する次第であります。

天皇、皇后、両陛下並びにご皇室におかれましては、ご長寿、末永くのご繁栄をご祈念いたす次第であります。

本日は誠に有難うございました。

平成二六年二月吉日

傍白

玉澤徳一郎先生の活動を理解しご支援下さいました、今は亡き多くの仲間の御霊に対しこれをご報告し深謝いたす次第であります。



平成二十五年秋の叙勲 大綬章勲章親授式

平成 25 年 11 月 6 日、皇居、正殿松の間において、
天皇陛下より勲章を親授され、内閣総理大臣から勲記を伝達される。



旭日大綬章

台日同名32駅観光プロモーション・同名さん大募集

ご存知ですか？台湾と日本には32の同じ駅があります。

板橋	桃園	富岡	大山	日南	清水	追分	豊富
豊原	大村	田中	水上	新市	大橋	岡山	竹田
東海	大里	龜山	中里	新城	平和	豊田	南平
大富	瑞穂	池上	関山	新竹	横山	富貴	松山

応募者の中より各駅1名、合計32名様を台湾で駅長体験付の台湾旅行にご招待(2014年11月出発)

台湾観光協会東京事務所 Tel 03-3501-3591 Fax 03-3501-3586

台湾観光局主催「台日同名駅
観光プロモーション」

台湾と日本の往来人数は、
二〇一三年通年で約三七六万人にのぼり、台湾そして日本がますます身近な存在になってまいりました。

台日同名駅観光プロモーションは日本と台湾にある同名前の駅をヒントに、日台双方の旅客が活発に往来し、観光することで互いの文化や習慣により興味を抱き、見聞を広め、理解を深めることを目的として企画されました。

「台北一〇一」と「東京スカイツリー」とのランドマーク友好関係締結、昨年八月の台湾「松山駅」とJR四国「松山駅」の友好駅協定の締結、今年二月の玉山と富士山との間の友好山協定など、日台の緊密な交流を挙げられた。

この観光プロモーションは、世界では違う国で同じ駅名を見かける事は多くありません。日台三二の同名駅が存在することは世界唯一です。

昨年、日台観光サミットで、双方の交流人数四百万人を目標に挙げ、日台間で同じ趣味を持つ人同士、同じ地名や地域同志が個別に交流を持つことを約束し、「日台各地域の人と一緒に努力し、四百万を達成していきたい」

江明清東京事務所長は、同じだけ違う、違うけど同じ、台湾と日本に会いにしよう！日台には三二の同名駅があります。「富岡駅は福島県にあり被災しています。残念だけど一日も早く復興出来るよう祈っています」「三二駅の名さん、ご本人、ご家族、ご親戚、ご友人等、ご応募下さいますよう、お待ちしております」

応募資格

- ・台日同名三二駅のいずれかと同じ名前(姓または名、漢字表記・本名基準)である証明書提出が可能な方。

- ・日本旅券をお持ちの日本在住の方。(有効期限三か月以上)
- ・同企画の趣旨に賛同し、行程内のイベントに参加して団体と同一行動がとれる二〇歳以上の成人の方。

- ・日本発着台湾線定期便就航地からの出発が可能な方。

- ・台湾での関連行事における取材や撮影にご協力戴ける方。

応募方法(郵便はがきに)

郵便番号・住所・氏名・電話番号・email・台湾渡航歴・コメント
明記、観光協会まで一人一通。

受付期間

三月一日〜八月二〇日

抽選

十月末日迄に当選者の書類確認後、発送。

月日	日台キッズラグビー交流2014 遠征日程
3月 20日 (木)	花巻空港集合 花巻空港発：中華航空便 台湾・桃園国際機場着 外交部亞東關係協會表敬訪問 日本人会・FIVEWOODS主催歓迎夕宴 洛基松江大飯店 泊
3月 21日 (金)	台湾高速鉄道 烏山頭水庫 台南市内視察(台南担仔麵) 台湾高速鉄道 東立物流董事長主催・晩餐会 洛基松江大飯店 泊
3月 22日 (土)	台北・太平小学校との練習・交流試合 会場：百齡河川敷公園ラグビー場 方仁恵先生・FIVEWOODS共催 日台両校児童交流昼食会(吉星港式飲茶) 台北市内視察 日本人会/FIVEWOODS主催送別会(錦華樓) 洛基松江大飯店 泊
3月 23日 (日)	ホテルにて朝食 ホテル発桃園国際機場へ 桃園国際機場発中華航空便 花巻空港着

【日台キッズラグビー交流】
被災地児童支援・国際ラグビー
交流プロジェクト二〇一四

日台交流委員会(企画・運営)
代表 向山 昌利

スポーツは言葉の壁を超える！

スポーツの持つフェアプレー
やスポーツマンシップといった
世界的に共通する価値は、人種

民族、宗教、などの文化の壁を
超える力を持ちます。

感受性豊かな子ども達が、こ
のスポーツの力を活用して異文
化に触れることは、大きな成長
の機会となるでしょう。

子ども達は、スポーツを楽し
く本気でプレーする中で異文化
を自然に体験できます。さらに、
スポーツという言葉を紹介して心
と心を通じ合わせることができ
るのです。

二〇一三年三月に開催いたしま
した第一回被災地児童支援・日
台キッズラグビー交流では、ラ

グビーを通じて日本と台湾の子
ども達が懸命にひとつのボール
を追いかけました。その中で彼
らの心と心が一つになり、笑顔
が溢れ出す場面を数多く見るこ
とが出来ました。

この喜びが第二回目となりま
す日台キッズラグビー交流を企
画する原動力となっております。
人と人との繋がりは、集団と
集団、社会と社会の繋がりと
なり、ひいては、国と国との繋が
りに発展します。

つまり、本交流は、子ども達
が良きパートナーとしての関係
を築き、台湾と日本の友好親善
を進める機会となるのです。私
たちは、このような台湾と日本
のより強い紐帯を生み出す試み
を継続させていきたいと考えて
おります。

最後に改めて、本交流の実現
に際してご支援くださいました
多くの皆様に感謝申し上げます

とともに、本交流の継続化に向
けて引き続きご支援を賜ります
ようお願い申し上げます。

台湾・五木橄欖球隊(主催)
FIVEWOODS代表 鎌田一宏

釜石シーウェイブス、太平國
小のみなさん、こんにちほ。

日本の東北地方を襲った東日
本大地震から三年が経ちました。
被災地の復興は少しずつ進ん
でいると聞いていますが、被災
した皆さんの心の傷や生活の苦
労はまだ続いていると思います。
私たちは東北の皆さんが少し
でも明るくなれるように協力し
ていきたいと思えます。
そして東北の皆さんがこれま
で沢山の支援をしてくれた台湾
のみなさんに感謝の気持ちを伝

えたり、交流を深めることができ
る機会を作りたいと思ってい
ます。台湾と日本の子供たちが
仲良くなって、これからも互
いに助け合える友達になれるこ
とを祈っています。

最後になりましたが、沢山の
皆さんがこのイベントに協力し
ていただいたことに改めて感謝
いたします。

◎プロジェクトの概要

ラグビーをとおして日本と台湾
の子供たちが文化の壁を越えて
友情を育み、将来にわたって交
流を深めるきっかけとすること、
同時に三・一一東日本大震災で
被災した釜石の子供たちが笑顔
を取り戻せる機会にしたいとい
思ってから企画されました。

二〇一二年三月の第一回日台
キッズラグビー交流は、在台北
系企業二〇社、個人の皆様、台

湾企業、台湾の基金会、中華民
國橄欖球協會などから多大なる
協賛を得て実現しました。

このキッズラグビー交流で、
日台の子供たちはラグビーの精
神 [On for All, All for One] を
体感し、双方に深い友情が芽生
え大きく成長しました。

この様な有意義なプロジエク
トは将来に亘つて是非継続して
いきたいと、今回第二回目のラ
グビー交流が企画され、前回同
様、数多くの皆様のご賛同とご
協力を得て実現の運びとなりま
した。ラグビーを通して、日台
の子供たちがお互いに理解・尊
重しあい、将来に亘つて日本と
台湾の友好関係を益々発展させ
ていくことを期待しています。
また、今後より多くの子供た
ちがこのような貴重な体験をす
ることが出来るよう、三年おき
を目的に継続的な実施を企画し
ていきたいと考えております。

【日程】二〇一四年三月二〇日

～二三日(三泊四日)

【開催場所】台北市政府體育局

百齡河濱公園橄欖球場

【主催】日本人会体育厚生部会

【企画・運営】日台交流委員会

【後援】

台北駐大阪經濟文化辦事處

公益財団法人交流協會台北事務所

社團法人台灣日本人会

台北市紅十字會

中華民國橄欖球協會

日本ラグビーフットボール協会

釜石市教育委員会 他。

【協賛】

一般社団法人亜東親善協会

台湾觀光協會・東京事務所

日台スポーツ・文化推進協会

イトウ製菓株式会社

中華民國留日東京華僑婦女會

JRFU ラグビーファミリー支援金

東立物流股份有限公司

共栄船渠株式会社

方仁惠(元總統府國策顧問) 他。

第一日目・三月二〇日(木)

花巻空港発 台湾桃園機場へ

桃園機場到着後、専用バスで、

外交部亞東關係協會表敬訪問

楊 勝任(理事長代行)

王 瑞豊(文化部部长)

謝 銘宏(係長) がお迎え。



楊 勝任先生より東日本大震災
被災地の児童「釜石シーウェイ
ブス」が、「日台キッズラグビー
交流」のため、來台されたこと
に対し、歓迎の意を表された。

日本・釜石シーウェイブスJr

氏名	年齢	ポジション	一言
新田 壮吾	11	CTB	みんなのリーダーとしてしっかりまとめる
鈴木 玲音奏	12	FW	小学校最後の試合なので頑張りたい
佐藤 遥斗	12	SO	友達をたくさんつくりたい
金浜 佑紀	12	FW	小学校最後の試合を楽しみたいです
高田 幸平	11	FW	相手と味方をよく見てプレーする
佐々木 快	10	HB	いろいろと楽しむ
佐々木 瑞紀	11	FW	タックルで相手をたおす
松田 善道	10	CTB	タックルをこわがらずに完璧に決める
及川 勝陽	10	HB	トライをする。台湾で沢山の友達をつくる
小笠原 青	10	SO	試合を頑張る
佐藤 蓮晟	10	FW	試合を頑張りたい
八幡 大歩	10	CTB	試合で勝ちたい
佐藤 優和	10	WTB	おいしいごちそうが食べたい
金浜 百花	10	WTB	観光を楽しみたい
及川 勝加	コーチ	団長・釜石シーウェイブスRFC	
佐々木 豊	コーチ	釜石シーウェイブス	
和野内 淳	コーチ	釜石シーウェイブス	
高田 幸成	父兄		
佐々木 久美子	父兄		
松田 宇善	父兄		
和野内 颯太	父兄		
原 英子		岩手県立大学(準教授)	
山本 健二		共栄船渠株式会社・代表取締役社長	

及川勝加訪台団团长より、東日本大震災に際し、台湾からの復興支援に対し感謝の意を表し、第二回のラグビー交流が開催できる台湾側のサポートにも感謝の意を表された。

スポーツ交流を通じて、人種、宗教、言語、経済、といった異文化を肌で感じ、日本と台湾の子供たちの友好親善を進める良い機会であり、継続させていきたいと述べられた。

台湾・台北市立太平國小

氏名	年齢	ポジション	一言
蔡 向圖	12	BK	Kobe Bryantのようなバスケ選手になりたいです
沈 睿宇	12	BK	得点王になりたいです
葉 承憲	12	BK	強くて速い有名なラグビー選手になりたいです
謝 昕安	12	BK	トライ王になりたいです
陳 章亨	12	BK	トライ王になりたいです
吳 仲勳	12	BK	バスケをもっとうまくなって代表になりたいです
鎌田 拓真	11	BK	頑張ります
陳 瑋偉	12	FW	ラグビーをもっとうまくなって代表になりたいです
王 暉翔	12	FW	努力して練習し体力をつけて将来代表になりたいです
呂 侑憲	12	FW	もっとラグビーがうまくなりたい
陳 馬可	13	FW	将来は優秀なサッカーとラグビーの選手になりたいです
李 嘉維	12	FW	チームメイトの陳馬可君に勝って太平小で一番上手な選手になりたいです
陳 凱翔	12	FW	勝ちたいです
葉 志隆	コーチ		
沈 浩銘	コーチ		
嚴 翔樺	コーチ		

また、第九回ラグビーワールドカップ二〇一九年が、日本で開催されること。二〇一六年リオデジャネイロ・オリンピックで、七人制ラグビーが復帰する事にふれ、七人制ラグビーでは台湾

はアジアで、日本に次いで第二位の実力があると説明された。釜石シーウェイブスの児童は、訪台に対し、各自一言コメントを述べ、亞東關係協會の先生との記念集合写真を撮りました。

第二日目・三月二一日(金)

ホテルで朝食後、台北車站へ台湾高速鉄道で台南市へ、西拉雅国家風景区・世界三大水利工事の一つである烏山頭水庫視察日本人水利技師・八田與一氏の功績を讃えるための「八田與一記念公園」で文化、歴史を学ぶ。台南市内で、台南名物「台南担仔麵」の食事を、摂りました。台北に戻り、東立物流董事長主催の晩餐會が開催された。



第三日目・三月二二日(土)

午前・向山昌利(元ラグビー日本代表)ラグビー教室を開催。「釜石シーウェイブスJエ」と「台北市立太平國小」両チームの対戦。試合は九人制で、時間は変則で一〇分ずつ三回の計三〇分。日台ラガーキッズは、白熱した試合を展開。試合は、釜石が六・四で勝利し、前回の雪辱を果たした。



主将の新田壮吾君は「言葉が通



じなくてもスポーツを通して心が通じ合えた」。佐藤遥斗君は「交流が出来て楽しかった。台南では麵が美味しかった」と話した。会場には日本メディアア台北支局長も取材に見えていた。また在日日本企業のご父兄も応援に見えられたが、春休みのため多くの児童が日本へ里帰りをしている今回、参加が出来なかったことでした。

日本からの大漁旗も張られた。



亞東關係協會提供ポロシャツ
台湾は東北のことを忘れていません



終了後、市内レストランへ移動
元總統府国策顧問・方仁惠先生
とFIVEWOODS共催の昼食会
「吉星」港式飲茶で開催された。
中華民國橄欖球協會會長、日本
人会の皆様、訪台団の皆さん、
六〇余名が参加された。
方先生は、東日本大震災にも触
れられ、また玉澤協会名誉会長
が、台湾と日本の架け橋となり、



日台親善の民間交流に貢献され
今回も協力要請があったと述べ
られ、在台日本企業各社の協力
にも感謝の意を表された。



台湾側より「蓮霧 Wax Apple」。
日本よりイトウ製菓のお菓子が
贈られ父兄も児童も日本製のお
菓子を大変喜んでいました。
市内レストランよりの「肉まん」
の差し入れ、台湾児童より台湾
産グミを一人二粒配給。釜石の
シール「負けねすよ釜石」の
交換等、言語の壁を乗り越えて
の交流が、見られました。



昼食後「釜石シーウェイブス」
一行は台北市内視察に向かった。
日本人会・FIVEWOODS主催
の送別夕宴が市内「錦華樓」で
催された。
中華民國留日東京華僑婦女會・
吳淑娥會長より新竹ビールのお
土産が贈られました。

第四日目・三月二三日(日)
朝食後、バスで桃園国際機場
訪台団一行は、中華航空便
で一路、花巻空港へと帰国。

(文責・編集部)

お知らせ

【一般社団法人亜東親善・総会・講演会・懇親会の案内】
会場・ホテル・ルポール麹町 ○三・三二六五・五三六一

総会 平成二十六年五月一日(月) 一六時～一六時四五分

講演会 平成二十六年五月一日(月) 一七時～一七時四五分

懇親会 平成二十六年五月一日(月) 一八時～一九時四五分

(参加会費一万円)

【弊親善協会名誉会長・玉澤徳一郎元衆議院議員叙勲記念祝賀会】

玉澤徳一郎名誉会長は、平成二十五年秋の叙勲で、天皇陛下より

旭日大綬章を親授され、内閣総理大臣より勲記を伝達されました。

叙勲記念祝賀会が平成二十六年二月一七日、ホテルグランドヒル

市ヶ谷にて開催されました。発起人代表は元内閣総理大臣・森喜朗

先生。弊協会理事・会員多数の方が出席されました。

【日台キッズラグビー交流】

弊親善協会協賛・東日本大震災被災地児童支援・国際ラグビー交流

プロジェクト二〇一四は、平成二十六年三月二〇日より三泊四日で

台北市で開催されました。日本・釜石シーウェイブスJr、台湾・

台北市立太平國小の交流試合が二十二日行われました。

編集後記

季刊「亜東」平成二十六年 春季号

皆様のご寄稿・夏号を募集しております。台湾・協会に関する、歴史

体験記録 旅行記 提言等 お待ち致しております。一頁・一三〇〇文字

二頁二六〇〇文字。写真も掲載可能です。締切日は六月末日(月曜日)

メールにて事務局まで E-mail atousinzen@nifty.com

○協会活性化を目指し、会員の拡充を図っています。所定の入会申し

込みに基づき理事会の議を経て会員になります。多くの皆さまの

ご参加を期待しております。会員のご紹介を、お願い申し上げます。

【年会費】①法人五万円以上。②賛助会員三万円。③個人一万円。

表題【亜東】は中華民國總統馬英九閣下の御揮毫です

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 平成26年 春季号 (No.49)

発行日 : 平成26年4月15日

発行所 : 一般社団法人亜東親善協会

編集 : 南部晴彦

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階

Tel:03-3261-6405 Fax:03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印刷 : ヨシダ印刷株式会社

台湾の魅力を、あなたにも。 チャイナ エアライン



チャイナ エアラインで、台湾の旅へ。

台北101や日月潭、阿里山など、見どころにあふれた台湾。
日本から飛ぶなら、チャイナ エアラインで。行き届いたサービス、快適なひととき…。
台湾を訪れるあなたを、心を込めたおもてなしで歓迎いたします。